



山陽放送報道局
放送ライブラリー
センター

終戦直後の岡山を市民に紹介



放送ライブラリーセンターの所蔵する、第二次大戦直後の岡山を撮影した映像「ホイットニー少佐の8ミリフィルム」が、今月11日に岡山市のデジタルミュージアムで紹介されました。ミュージアムで毎年開かれている「岡山戦災の記録と写真展」の記念講演として行なわれたもので、小松原が説明に立ちました。

ホイットニー少佐は、1945年昭和20年10月にアメリカ進駐軍の初代軍政部長として岡山に入り、現在の岡山中央郵便局3階にオフィスを持って自治体に指示を与えていました。フィルムは少佐が任務を終える47年2月までの1年5ヶ月の間に撮影されたもので、焼け跡の復興から当時の人々の生活までがカラーで記録されており、当時の岡山の生活を写した動画としてはおそらく唯一のものです。

講演では「進駐軍司令官が見た岡山」と題して、岡山空襲直後の焼野が原と復興にがんばる市民、それに表町商店

街や郊外での農作業等を紹介しました。会場には戦争を体験した熟年世代がたくさん詰め掛け、熱心に画面を見ていました。復興なった表町商店街や農作業の風景が映し出されるとなずく女性の姿や夫婦で思い出を語り合う姿が見られましたが、一方で苦しかったはずの時代がカラーで、しかも明るく撮影されていることに違和感を持つ方もあったようで、講演後に「戦争に勝ったアメリカ人が物見遊山に写したフィルムは資料にならない」との意見もいただきました。しかし、撮影されているのは生活の一部に過ぎないとは言え紛れもない真実であり、今後は敗戦体験者の証言や物証を集めて、この時代を浮き彫りにしていきたいと考えています。

次世代ハイビジョンは17年後？

NHK技研の技術公開より

岡山香川ではまだ地上波デジタルが始まっていない時に次のメディアの話をするのもなんですが、ハイビジョンよりももっと高画質のメディア、「スーパーハイビジョン」が実用化に向けて動き始めているのでお知らせします。

スーパーハイビジョンは、現在のハイビジョンに比べて縦横ともそれぞれ4倍のきめ細かさ（4320×7680画素）を持ったものです。NHK技研で公開されたプロトタイプのカメラは大きさが昔のスタジオカメラくらいで、まだただの箱といった感じですが、スクリーンに映し出された映像は、縦3メートル、横5メートルまで拡大してもピクセルが目立たない程のすごさです。しかも現在のハイビジョンのように、映像圧縮による画像の劣化がほとんどありません。

もっとも、使用周波数は21GHz、使用帯域は300MHzといますから、衛星放送くらいにしか使えないのかもしれませんが。実用化は2023年頃ということです。その頃テレビはいったいどうなっているのか、ちょっと気になるところです。



センターのHP更新中

ライブラリーセンターのホームページは4月20日に立ち上げました。閲覧数も一日80件から90件あり、少しずつ増えています。そこで内容の一部を更新する事にし、現在作業中です。今回はとりあえず、アーカイブズページの追加だけとなりますが、将来は増ページも考えています。時々訪ねてみてください。

©著作権まめ知識は今月お休みします。